

イデックスオイルレポート ~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

●第1週、6/6のWTI原油は、先週比3.79ドル高の64.58ドルとなった。米労働省がこの日発表した5月の雇用統計(季節調整済み)によると、景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数は前月比13万9,000人増だった。伸びは4月(14万7,000人増、改定)から幾分鈍化。市場予想(13万人増)と同程度だった。一方、失業率は4.2%で横ばいとなった。

●第2週、6/13のWTI原油は、先週比8.4ドル高の72.98ドルとなった。イスラエルは13日、敵対するイランに大規模な空爆を実施。核開発の重要拠点である中部ナタンズのウラン濃縮施設に甚大な被害が出たほか、主要な軍司令官らが殺害された。これを受け、イランも同日にドローンで報復攻撃を行い、両国の軍事衝突激化は必至との見方が広がる中、市場では買いが殺到。

●第3週、6/20のWTI原油は、先週比1.95ドル高の74.93ドルとなった。19日、トランプ大統領の発言として、イスラエルと交戦するイランへの攻撃について、「2週間以内」に判断する方針を発表。武力行使を辞さない構えが示されたものの、外交的解決を模索する姿勢も見えた。

●第4週、6/27のWTI原油は、先週比9.41ドル安の65.52ドルとなった。一部メディアが、OPECプラスが8月に日量41万1,000バレルの増産を検討する用意があると報じた。OPECプラスの有志8カ国は、過去3カ月間、同水準の増産を決定しており、次回の会合は7月6日に予定されている。供給過剰への警戒感が浮上し、原油売りが加速。

6月平均	WTI原油	67.33ドル	前月比	6.39ドル	為替 1ドル	145.54円	前月差	-0.21円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	--------

日付	補助金	変動幅	変動幅
6/1~6/4	8.4/5.0	-3.5	-3.5
6/5~6/11	9.4/5.0	-0.5	-0.5
6/12~6/18	10.0/5.0	+0.5	+0.5
6/19~6/25	10.0/5.0	+4.5	+4.5
6/26~6/31	13.4/6.7	+6.5	+6.5

※補助金については、左 ガソリン・軽油/右 灯油・重油

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2025年1-3月C重油決定価格	94,130	96,130	(94,130(メニュー)+ 2,000(プレミアム))
2025年4-6月C重油仮価格	84,060	86,060	(84,060(メニュー)+ 2,000(プレミアム))	
2025年4-6月C重油決定価格	83,930	85,930	(83,930(メニュー)+ 2,000(プレミアム))	
決定価格 前期比	-10,200	-10,200		

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油	
	2025年1-3月決定価格	101,530	107,600	
2025年4-6月仮価格	91,460			
2025年4-6月決定価格	91,330	95,100		
決定価格 前期比	-10,200	-12,500		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	25/5	9桁速報	68,161	75.23	144.04	-5,277
	25/6	最終予測	61,385	67.81	143.92	-6,776
	25/7	展望	62,669	70.16	142.00	1,284
	25/8	展望	67,165	76.27	140.00	4,496

【次世代エネルギー】〈竹中工務店と那須電機鉄工が開発、小型・軽量「水素タンク」の機能〉

竹中工務店と那須電機鉄工は共同で、水素ガスを安全に貯蔵・運搬できる小型・軽量のタンクを開発した。「ナノ化鉄チタン水素吸蔵合金」を用いて水素を貯蔵しており、火炎を近づけても着火しないため危険物に該当せず、特別な資格がなくても安全に取り扱える。災害現場や建設現場など幹線からの電力供給が困難な場所、オフィスや一般家庭まで幅広い用途で活用を見込んでいる。

水素ガスを数百—1000分の1程度の体積でコンパクトに貯蔵できる「ナノ化鉄チタン水素吸蔵合金」を採用。タンクから放出される水素ガスの圧力は1メガパスカル未満(メガは100万)で、高圧ガス保安法の適用範囲外となり、特別な届け出や免許なしで取り扱える。また直径140ミリ×高さ606ミリメートル、重量29キログラムと小型・軽量化。宅配便で配送でき、水素燃料の流通促進や適用拡大が期待できる。

タンク内部には効率的な熱交換構造を採用した。タンクの小型化による水素吐出量低下を克服し、燃料電池による安定的な発電のための水素供給が可能となる。

今後、竹中工務店は可搬型電源装置の開発、那須電機鉄工は水素タンクの容量向上や熱交換効率の向上などの技術開発を継続。水素発電を基盤とした電源システム構築を目指す。

出典: ニュースイッチ <https://newswitch.jp/p/46024>

【7月価格変動要因】

●需要:
 ・米国経済は引き続き底堅い。米5月実質小売売上高は前月比▲0.8%と2か月連続減少も、過去トレンドに戻った程度で水準としては悪くなく、財消費は底堅い。関税を巡る混乱もあって企業マインドが悪化し、雇用には波及している点が指摘されており、その上で今週発表の米6月雇用統計は注視に値する。
 ・欧州は軟化。4-6月期のドイツ経済はマイナス成長となった可能性が指摘されている。駆け込み由修の反動によりユーロ圏全体でも低迷が見込まれており、関税影響がじわりと顕在化しつつある。
 ・中国景気は強気と見る向きもあるが、総じて底打ち感が出てきている。
 中国の家電及び通信機器の小売売上高は足元でトレンドを大きく上回る増加を見せているが、政府による買い替え支援策が背景にある。

●供給:
 6月は中東情勢に振られる展開となった。
 6月12日、IAEA定例理事会にて対イラン非難決議が採択され、英独仏はスナップバック条項発動を警告。これを契機として、13日、イスラエルはイランを空爆。イランは米イラン核交渉の裏で2024年にイスラエルによって破壊されたイランの防空システムの復旧を急いでおり、イスラエルがイランを空爆する機会は限られていた。21日、米国はイランの核施設に対してバンカーバスターによる攻撃を実施。米国はイランを各交渉のテーブルに戻す事に成功し、中東情勢緊迫化に伴う市場の混乱は急速に終息へ向かった。

●地政学:
 伊核合意におけるスナップバック条項の期限は本年10月に予定されており、そこまでは核合意-イランを巡る中東情勢の混乱は長引きそうだ。新合意を取り付ければ中東情勢緊迫化に伴うリスクプレミアムは剥落し、原油相場は下値を探る展開になろう。一方、今般の攻撃によりイラン国民の間では反米・反イスラエル感情が強まっている。仮に中東情勢がもう一度緊迫化を迎え、ハメネイ師暗殺等に繋がれば原油相場のボラティリティは高まり、再び80ドル台を目指す可能性は潜在している。

<1ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	73	71
Average	67	65
Low	61	59

<3ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	74	72
Average	66	64
Low	58	56

日付	国	7月経済指標カレンダー	日付	国	7月経済指標カレンダー
1	日本	4-6月期日銀短観・四半期大企業製造業業況判断	17	ユーロ	6月消費者物価指数
1	ユーロ	6月消費者物価指数(HICP、速報値)	17	米国	6月小売売上高
1	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言	18	日本	6月全国消費者物価指数
1	米国	6月ISM製造業景況指数	24	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利
2	米国	6月ADP雇用統計	24	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
3	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨	24	米国	6月新築住宅販売件数
3	米国	6月非農業部門雇用者数変化	30	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産(GDP、速報値)
3	米国	6月失業率	30	米国	7月ADP雇用統計
3	米国	6月平均時給	30	米国	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
3	米国	6月ISM非製造業景況指数(総合)	30	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
9	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	30	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
15	米国	6月消費者物価指数	31	米国	6月個人消費支出